

第 3 回 札幌駅交流拠点再整備構想案策定委員会 議事要旨

日 時：平成 22 年 10 月 5 日（火）午後 2 時

場 所：STV 北 2 条ビル 6 階 会議室

議事要旨

委員長挨拶

札幌の動き、あるいは同等規模の日本の中の動き、非常に大きな動きをしている中国、アジア諸国の動き、地域の戦略的な動きがある。そういう中で、500万人の北海道の首都の札幌は、北方圏の中では非常に大きな力を秘めており、その拠点である札幌駅周辺をどう考えなければいけないのかということ、市民のため、道民のため、日本を引っ張っていく、あるいはアジアを引っ張っていくシナリオを描き出していければと思う。

1. 昨年度の振り返り・今年度の委員会スケジュール・検討テーマについて
異議なく承認
2. 市民意見の調査結果の詳細分析報告・今年度の調査計画（留学生・学生ワークショップ実施結果速報含む）について
 - ・留学生を含めた学生の視点は、かなり鋭い見方をしていると思う。具体的に札幌に住んで学んでいるリアルな視点と、自分の出身地とか自分の国とか世界と比較しながら評価している。議論のベースになるように使っていただければと思う。
 - ・アンケートについて、札幌駅周辺、大通も含めて都心というところに来なくてもいいという人たちの理由は何なのか、といった分析があればお伺いしたい。
（事務局）アンケートは、来る方に対してどういう理由でという分析が中心となっており、来ないと回答した人に対してなぜという設問そのものがないので、残念ながらそのデータはない。

3. 札幌駅交流拠点の位置づけ、役割について

【構想案の表現・内容、方向性について】

必要な現況の整理

- ・必要な現況とか実態がこれには盛り込まれていないので、きちんと整理してほしい。現実はどうなっているのか、将来の予測、そういうことをきちんと整理しておくことが必要。

駅前広場が課題

- ・一回構想をつくって、南口の開発が行われたが、やはり課題が残っているということだと思う。この課題は、駅前広場が当時考えていたことと違うので、まずはそれを直そうということだと思う。

土地利用について

- ・都心全体の土地利用を全体に底上げするような土地利用を考えるのか、競合するような土地利用を考えるのか、その姿勢は示すべき。
- ・札幌駅周辺のこと限定して考えると、南側と北側を一体的に考える土地利用を前提にするのかどうか、そういう大事な部分が抜けている。

産業振興について

- ・基本方針の中に産業振興が入っているのが、やや違和感がある。これはかなり難しい分野で、いずれも相当エネルギーをかけなければできないような重い話である。

顔づくり

- ・これからの北海道における観光でも札幌はその中心的な役割を果たす。札幌駅に千歳や函館あるいは道東から観光客が入ってきて、札幌におり立ったときに、非常にすてきなまちだ、札幌は何といいところなのだと思ってもらえるような整備が必要。
- ・世界のどの都市に行っても、魅力的な都市というのは、まちの顔がある。訪れた人に如何にいいと思ってもらえるか、あるいは札幌に住んでいる人たちにとっても魅力的な場所にしていくかということ。

港湾との関連

- ・3港湾との関係について、人的な交流というよりは、石狩は流通港湾で、苫小牧は工業港湾であり、性格が異なると思う。

パブリックライフについて

- ・日本の中でパブリックライフというものは概念的に定着していない。公園の緑をめでながら日光浴をして本を読む、大通公園でビールを飲んで騒ぐ、オータムフェスト、YOSAKOIなど、何でもパブリックライフだと言ってしまふ。そうすると、まちの中は何をやってもいいという話になる。パブリックライフと言うのであれば、こういうものがパブリックライフだときちんと言わなければいけない。

環境政策について

- ・環境エネルギー政策は、共通の一般解はなく、札幌なら札幌の地域特性に合わせたエネルギーの利用、環境エネルギー政策が大事。

- ・都心では、昼間と夜間の需要量にすごい格差がある。同じようなところで複数のプラントが同じように稼働している中で、うまい連携の仕方をこれからの課題として考えていかなければいけない。
- ・都心と住宅街との連携といったことも視野に入れて、この札幌駅周辺がネットワーク上の一つの核になっていけばいいと思う。
- ・環境首都ということが一目でわかるような、環境政策の見える化などシンボリックなものが必要と思う。札幌だけではなく、北海道全体が環境に配慮した地域づくりということに全力で取り組むべき。

コンセプトについて

- ・コンセプトが、どういう都市になりたいのか、その個性がどちらの方向に行きたいのかということがわかりにくい。
- ・みんながイメージをしっかり共有できるものであるべき。ストーリーがあった上でゴールがあって、そのゴールに結びついているようなコンセプトがあることで、この構想のイメージを明確にするのではないかと思う。
- ・札幌に行ってみよう、投資してみよう、立地してみよう、住んでみよう、そこで業務をしてみようという魅力がわかるような、マーケティングを含んだ概念にした方が今の世界の動きには呼応すると思う。

ソフト施策について

- ・交流を促進するために市民が何ができるのか、それを促進するような人材の育成はどこで何を行っていくのか、そういったソフトの部分がもう少し議論されてもいいと感じた。

【委員会における議論について】

新幹線関連

- ・新幹線は、来るか来ないかということより、来たらどうなるか、来たときにどういう使い方をしていくのかというプラスアルファしていくような議論をしていただければと思う。
- ・新幹線が延伸されれば、駅での人の流れが変わる。例えば、JR札幌駅と地下鉄さっぽろ駅は結構な距離があると思うが、地下鉄さっぽろ駅を北側にちょっとずらした方がいいのではないか、というような議論はこの委員会である話なのか。
(委員長)あと何メートル近づけられますよという議論はできないが、今の接合の仕方はおかしいから考えるべきではないか、ということは言っても構わないと思う。

札幌駅交流拠点に求められる機能・大通との関係

- ・今回の交流拠点の再整備が北海道全体の発展につながるような拠点整備であってほしい。そのためには交通結節機能は非常に重要だと思う。
- ・札幌駅交流拠点では集客・にぎわい機能と交通結節機能、どちらの機能を重視したいと考えているのか。どちらも重視しなければならないとは思いますが、大通との関係も含めて、どういう整理をするのか。
(事務局)札幌駅対大通といった関係性で考えるよりも、都心全体で札幌の都市魅力をどう発信していくか、あるいは人を集めていくかという観点で、都心全体として考えていくことが必要。どちらも大事なもので、どちらかに焦点を絞って議論をするという考え方はしていない。

(委員長)札幌の魅力というのは、駅から少なくとも大通公園を越えて、商店街の限界まで連携してその魅力が高まっている。それをより一体化するために250億円をかけた。分けて考えるのではなくて、一体的に考えようということ。

誰のためのプロジェクトか

- ・新幹線が来るであろう札幌駅はだれのためにつくっているか。中国のお金持ちが札幌市周辺のマンションを買うためのプロジェクトではなく道民のためだ、ということを反論も含めてしっかりやらないといけない。